

# 【2024 事業報告書 ⑤】

HKFA審判委員会 女子部

## “コンサドーレ・エスポラーダカップ”全道市町村サッカー・フットサル大会

- 日 時 : 2024年12月14日 (土)
- 場 所 : 大和ハウス プレミストドーム
- 内 容 : 運営スタッフ (審判員)
- 参 加 者 : 長浜 杏名・高橋 柚葉 (2級審判員)  
空知地区ユース3級審判員1名



### ■参加者のコメント

#### 空知地区ユース審判員

1つの会場に様々な年代の人達が集まっていることから、活気の溢れる賑やかな場になっていて、審判として参加して楽しかったです。



5R ～一歩一歩着実に～

## フィットネス研修会②

- 日 時 : 2024年12月21日 (土) 13:00~15:00
- 場 所 : ハイテク・インドアスタジアム
- 講 師 : 岡田 渉 (サッカー2級審判インストラクター・女子部)
- 補 助 : 大岩真由美氏 (HKFA副会長)
- 参 加 者 : 土屋 花 (2級審判員)
- プ ー ザー : 川合 信氏 (空知地区FA審判委員会委員長)  
佐藤 修也氏 (空知地区FA審判委員会副委員長)  
長浜 杏名氏 (空知地区FA審判委員会女子部長)



### ■日程

13:00	審判員集合
	ウォーミングアップ
13:30	Speed Test 40m 6.6秒以内×6本
	Interval Test 75m run 17秒・25m walk 22秒 ×40本
14:20	クールダウン・振り返り
15:00	解散

1級女子の基準

### ■参加者のコメント

#### 土屋 花

今回フィットネス研修に参加するにあたって、まずはこのような機会を準備していただいた北海道サッカー協会のみならず、場所を提供していただいた北海道ハイテクノロジー専門学校インドアスタジアムのみなさまに感謝申し上げます。  
なかなか自身でのトレーニングが厳しくなってきたこのような時期にフィットネステストを模擬で受けられるという環境は決してあたりまえではないということを常に感じています。自身の課題であったフィットネスはこれまで何度も壁にぶつかってきました。思うようにいかない日々の連続であきらめてしまいたいと思うことが何回もありましたが、今回フィットネス研修を受けて改めて最後までやりきることの大切さを感じる事が出来ました。要因の一つに支えてくれる方々です。インターバルを走っているとき何度もやめたいと思いましたが、その都度「できる!」「大丈夫!」という声をかけていただいたおかげで最後まで走りきることができたのだと思います。

まだまだ自身の課題は山積みです。しかしその分自分成長できるのではないかと考えるようにしています。今まで支えていただいている方々にももっと新たな自分を見ていただけるよう、そしてフィットネスの試験がなぜあるのかをしっかりと考え、今後もトレーニングを欠かさず行っていきたいと思っています。ありがとうございました。

## ■ 大岩真由美氏より

2級審判インストラクターの岡田さんのお陰で、女子審判員のためにフィジカルトレーニング会を開催することが出来ました。年末の忙しい時期にも関わらず、正式な体力テスト用の機材や、走っている最中の姿勢などのチェックを出来るようにタブレットなどを用意してくださり、本当にありがとうございました。

当日は強化審判員の方、1級の方もトレーニングのために参加されており、緊張感と同時に北海道の審判ファミリーというアットホームな雰囲気もある中、参加した女子審判員は自身の課題にチャレンジしていました。

北海道は、雪が降る冬季間こそ夏場に出来ない体力トレーニングや身体作りをする大切な時期と考えます。今日はとても有意義な研修会となりました。岡田さん、本当にありがとうございました。

## ■ 岡田渉2級審判インストラクターより

今研修のテーマは『フィットネステストを通して現時点でのコンディション把握』としました。変化が分かりづらいフィットネス分野において、まずは可視化をすることで課題を明確にし、オフシーズンのトレーニングに役立ててもらう事が主な目的です。北海道は他の地域と違い、使用できる施設に限りがあります。そこにネガティブな発想ではなく、今後何ができるかなどのポジティブな言動を身に付ける事で次のシーズンに向けて変わってくると思います。

## 全国大会参加報告

■大会名 : 高円宮妃杯 JFA 第29回全日本U-15女子サッカー選手権大会

■日時 : 令和6年12月7日(土)・8日(日)

■場所 : 栃木県 さくら市総合公園さくらスタジアム

■参加者 : 秋山 心音(2級審判員)  
地域推薦2級女子審判員14名

■日程・内容 :

11/26(火) 事前web研修

○自己紹介

○大会要項・競技運営上の注意事項の確認 (INS山岸佐知子氏)

○大会での審判員の役割

・フェアであること＝「美しい試合」にとって重要な基盤

・サッカーにおける最高の試合＝審判がほとんど登場することのない試合

・選手の安心、安全、快適さのためにあまりにアグレッシブであったり、危険な行為を行う競技者にはしっかりと対応する

12/7 1回戦 朝日インテック・ラブブリッジ名古屋スターチス vs ANCLASノーヴァ

主審

アセッサー：井脇真理子氏

【振り返り】

ワンサイドなゲームだったこともあり、全体を通して落ち着いて取り組むことができた。タッチジャッジの点では最終的に正しく示せたため概ね良かったが、細かいところで副審との差し違えが二度ほど起こってしまった。ボールがラインから出る前に副審の様子からワンタッチが見えていない可能性があるなど感じたら、少し早めに強くシグナルすることで不要な差し違いを防ぐことが出来ると感じた。また2枚目の飛び出しがあり、ゴール前のオフサイドをキャンセルした場面では、選手の中で数名、納得のいっていない様子が見受けられた。その直後のアウトオブプレーになったタイミングで、端的に全体へ2枚目の飛び出しがあったことを伝えたほうが良かったと感じた。今後そのような場面での、細かい対応スキルも身に付けていきたい。

【INSからのアドバイス】

- ・よく走れており、ストライドが大きいので身体を大きく見せることができている。しかし、走り出しの一步目から大きいため何かあった時に遅れてしまう可能性がある。最初の3m程は細かく走り出すとより良くなる。
- ・ファウルの判定に迷い、笛をくわえたが吹かなかった場面があった。自分の中ではちょっとした心の迷いから出た行動だが、自分で思っている以上に主審の動きは目立つし、みんな注目している。何か起こりそうだから笛を準備しておくのではなく、起こってからくわえること。
- ・試合終了のホイッスル後、中央に整列する際に主審自らボールを拾いに行ったが、もし選手たちが整列しているところで何か起きたら対応することができない。そのため、副審にお願いすることも頭に入れておくこと。

アセッサー：浅井 昭子氏

## 【振り返り】

試合のレベルが高く、ファウルの見極めと見極めるためのポジショニングや走力が求められる試合だったと感じた。一度オフサイドをキャンセルした場面があったが、GKはオフサイドだと思い間接フリーキックのセットを行った。相手選手がプレスに行くことなく何事もないように試合が進んでしまったが、後から副審と話した際に手でボールを保持した後、足でボールを転がし再度手でボールを停止させていたことから、相手チームの間接フリーキックとして対処すべきだった。主審の私が気づき対応する場面であったが、審判団の誰かが気づき協力が大切であると再認識した。また、このような場面でインプレー中にどのようにコミュニケーションを取るべきなのか今後の課題にしていきたい。

この試合の特に前半では、ハイボールの競り合いの場面が多かった。しっかりと良い位置・角度から争点を見ることはできたが、細かいファウルの見極めが難しいと感じた。押す・体重をかけて寄りかかる・引っ張るなど、互いにボールに向かって競り合う中でのことなのか、競る前から起こっていることなのか、ボールが来る前の位置関係などよく見て判断することが大切であり、課題の一つにしていきたい。

## 【INSからのアドバイス】

- ・前半、GKのボール保持が長かったため声をかけていたが、後半も保持時間が変わらず続いていた。ハーフタイムに何かできることがあったのではないかと考える必要がある。
- ・試合全体を通して、後半も落ちることなくよく動いていた。しかし方向転換をする際、またボールから逃げる際に必要以上に膨らんで走っていたため、「臍でボールを見ること」を意識するとよい。

## 研修を通して

北海道を出て、全国大会に参加するのは今回で二度目の経験でした。初めての道外での活動から約1年半、この期間思うように審判活動が出来なかった私にとって今回の大会参加は、非常に大きな決断でした。まずはそんな私を北海道代表として推薦して下さい、このような貴重な経験をさせていただいたこと、心より感謝申し上げます。

試合を通して成長できたこと、今後特に課題にしていきたいことは多くありますが、今大会参加にあたって、試合以外の場面で学べたことや経験できてよかったこと、今後大切にしていきたいことも見つけることが出来ました。いつも様々な面で、どこか自分の中の準備不足が試合に出てくることが多々ありましたが、今回は**体調面・精神面・用具の面など色々な角度から入念に準備を行い、万全の状態**で2試合とも迎えることが出来ました。今回見つかった課題の一つとして、「対応」の部分が大切だと感じました。2試合とも起こった事象だと、“オフサイドをキャンセルした後の対応”です。キャンセルした後に選手達に「続けて！」と声をかけるのか、キャンセルしたことがしっかりと副審に伝わっているのかなど、**自分が行動したことに満足するだけでなく、その後選手の様子はどうか、審判団の協力はできているのかと、後のことまで考えてアクションを起こせることを課題にして取り組んでいきたいと感じました。**

今後も**関わっていく一試合一試合大切に**向き合っ、より良い審判員を目指していきたく思います。そして常に今ある環境、いつも暖かく支えてくださる方々に感謝し、日頃から過ごしていきたいと思います。

最後になりましたが、改めて今回このような貴重な経験をさせて下さった北海道サッカー協会の皆様、大会を開催すにあたってご尽力いただいた栃木県サッカー協会の皆様、そして日頃より私の活動を支えて下さっているすべての方々に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

